

秋のクリーンエイド 葛西橋中土手の会場に参加 注射器が22本 レジンペレットは無数

秋のクリーンエイド、中土手の会は、葛西橋中土手の会場に参加しました。江戸川区土木主催の同会場、例年は1週間前に行われていたのですが、今年は第3週になったので、中土手の会はこの会場に参加、労金労組と江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブなどの人たちと一緒にゴミの調査・回収を行いました。

この会場は、コンクリートの低水護岸の上にレジンペレットが大量に打ち上げられているのが大きな特徴ですが、今年も同様に、レジンペレットとプラスチックの細かい破片が、積みあがるように溜まっていました。

また、今回の大きな特徴は、注射針がなんと22本も回収されたことです。一体誰がこんなに捨てるのか。そう思っていたら、上流にそのなぞを解く鍵がありました。荒川流域ネットワークの会合に参加した際、医療廃棄物の不法投棄が問題になっていることがわかりました。今後、流域連携で、このような危険なゴミの投棄をやめさせたいものです。

また、今回始めて参加された生ごみ堆肥化実践クラブの伊東さんからは、「このようなゴミ拾いの体験は、すべての若者が参加するようなシステムを作るべきだ」と感想を述べて戴きました。
(佐藤正兵記)



野村圭佑さんを偲ぶ会に50人 野村圭佑環境賞・基金設立

11月18日、野村圭佑さんを偲ぶ会が行われ約50名の方が参加しました。足立区生涯学習センターで午後3時から「野村さんを語り継ぐ」会が行われ、野村さんのスケッチ原画や著作を展示するなかで野村佐智子さんをはじめ、下町みどりの仲間たちの彦坂さん、出版社どうぶつ社の久木さん、国土交通省の田畑さんなど大勢の方から、野村さんへの思いが語られました。その後、会場をレストランに移して「野村さんを偲ぶ」会が行われ、それぞれ野村さんの思い出を語り合いました。

野村圭佑さんを偲ぶ会実行委員会から「野村さんの自然環境に対する遺志を受け継ぎ、野村環境基金を設立して、荒川や下町の自然回復に功績のあった団体や個人の活動や研究を発掘・顕彰し、年に一度表彰する」という提案がなされ確認されました。

野村さんの蔵書の一部が事務局に

野村さんの著書と蔵書、スケッチの原画などの一部が、荒川クリーンエイド・フォーラム事務局のある小松川市民ファームに本棚とともに移され、展示されています。自由にご覧いただけます。



マグカップ（写真の絵はガガイモと冬景色）

次回12月16日（日）の予定

集合：午後1時30分から作業

作業：ヨシ刈り 倉庫整理

忘年会

市民ファーム事務所で 午後6時から
会費1000円、持寄り差し入れ歓迎

野村さんのスケッチを印刷したマグカップを12種類（1個に2つの絵）を作成し、販売しています。収益は基金に組み入れます。（1個1000円）

基金の送り先

野村圭佑環境基金 郵便振替口座

00180-1-373391

一口1000円で何口でもお願いします。
佐藤正兵までお問い合わせください。